

株式会社首里石鹼
ポジティブインパクトファイナンス評価書

発行日:2025年12月3日

株式会社琉球銀行は、株式会社首里石鹼(以下、「首里石鹼」または「同社」)に対してポジティブインパクトファイナンス(以下、「PIF」)を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト(ポジティブな影響及びネガティブな影響)を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ(UNEP FI)が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド(モデル・フレームワーク)、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンススクワードがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、琉球銀行が独自に開発した評価体系に基づいている。

目次

1.企業概要と理念、サステナビリティ	
(1)企業概要	4
(2)会社沿革	5
(3)経営理念	6
(4)組織体制	7
(5)本社及び店舗所在地	8
(6)沖縄県産原料の活用	11
(7)サステナビリティ方針と活動	12
2. インパクトの特定	
(1)バリューチェーン分析	19
(2)インパクトレーダーを用いた分析	20
(3)同社の事業活動のインパクト分析	21
(4)追加したインパクト	22
(5)特定したインパクト	22
(6)インパクトニーズの確認	23
3.KPI の設定	26
4.モニタリング	28

1. 企業概要と理念、サステナビリティ

(1) 企業概要

首里石鹼は、沖縄の自然を詰め込み、香りと素材と使い心地にこだわった商品を販売しており、沖縄発のスキンケアブランド「首里石鹼-SuiSavon-」を国内に 2025 年 11 月末時点では 31 店舗を展開している。

取扱商品には、ボタニカルハンドメイド石鹼やマリンクレイ洗顔石鹼、泡盛の酒かすを有効活用した美容液などのフェイスケア商品のみならず、ボディケア商品やヘアケア商品も多数取り扱っている。また、企業内保育施設「しゅりそら保育園」を運営し、「家族が幸せであること」をモットーに、園児と家族に寄り添う保育を提供している。

企業名	株式会社 首里石鹼
本社所在地	沖縄県那覇市首里末吉町 4 丁目 6-6
代表者名	緒方 教介
設立	2011 年 4 月
従業員	181 名(2025 年 10 月末時点)
資本金	9,000 万円
事業内容	【物販事業】SuiSavon-首里石鹼- 運営 (石鹼などスキンケア商品の企画・販売) 【保育事業】しゅりそら保育園 運営
営業拠点	全国 31 店舗 (沖縄、宮古、石垣、東京、大阪、名古屋、福岡、札幌、神奈川、広島)



(2)会社沿革

2011年4月	法人設立(コールセンター事業にて創業)
2012年7月	(株)ファーイーストコミュニケーションから(株)コーカスへ商号変更
2016年9月	本社を那覇市首里末吉に建設・移転
2016年10月	首里石鹼1号店「当蔵ギャラリーショップ本店」を首里当蔵にオープン
2017年3月	沖縄県人材育成企業の認証取得
2017年7月	首里石鹼2号店「ウミカジテラスギャラリーショップ」オープン
2017年10月	首里石鹼3号店「国際通り松尾ギャラリーショップ」オープン
2017年11月	首里石鹼4号店「那覇エアポートコンセプトショップ※」オープン ※現:那覇空港グルクン CONCEPT SHOP/那覇空港さくら CONCEPT SHOP
2018年2月	首里石鹼5号店「市場本通りギャラリーショップ」オープン
2018年3月	「しゅりそら保育園」開所
2020年6月	首里石鹼10号店「オキナワハナサキマルシェギャラリーショップ/FC」 オープン
2021年8月	県外初出店となる首里石鹼「ルクア大阪ギャラリーショップ」をオープン
2023年4月	離島初出店となる首里石鹼「サンエー宮古島シティギャラリーショップ /FC」をオープン
2023年8月	首里石鹼20号店「天神地下街ギャラリーショップ」をオープン
2023年11月	Forbes JAPAN SMALL GIANTS AWARD 2023-2024 「ベストタレントイノベーション賞」受賞
2024年2月	首里石鹼25号店「鎌倉鶴岡八幡宮若宮大路ギャラリーショップ」を オープン
2024年3月	沖縄県所得応援企業を認証
2024年10月	(株)コーカスから(株)首里石鹼へ商号変更
2025年4月	首里石鹼「サンエー具志川メインシティギャラリーショップ」オープン
2025年6月	首里石鹼「アトレ吉祥寺ギャラリーショップ」オープン
2025年7月	首里石鹼「グランツリー武蔵小杉ギャラリーショップ」をオープン
2025年10月	首里石鹼「流山おおかたの森ギャラリーショップ」をオープンし、国内 31店舗を展開(2025年11月末時点)

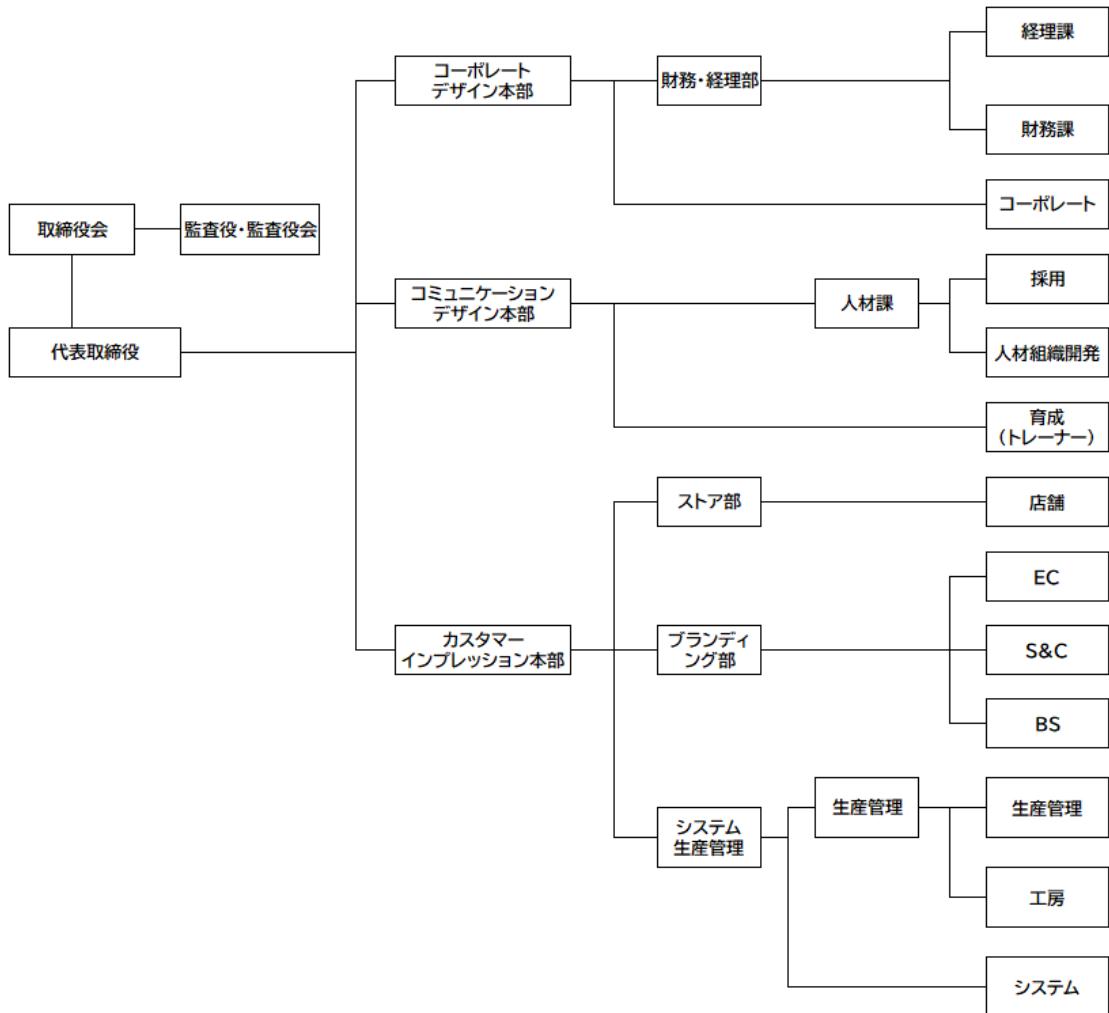
(3) 経営理念

OUR VISION
世界のための 沖縄になろう
MISSION
沖縄のもつ力で感動と笑顔と平和を世界中につくろう 「世界のための沖縄になろう」というビジョンを軸に、沖縄の持つ力を世界に届けていく企業として、成長し続けます。 首里石鹼事業は「センスと品質の良い沖縄のお土産屋」から、「沖縄の自然を世界の人々の価値にかえていく事業」へ。 首里石鹼が目指すビジョンに共感して頂ける取り組みを、これから先も続けていきたいと思います。
VALUE
ためになる。をする せかいのためになる。をする。この国のためにになる。をする。沖縄のためにになる。をする。 お客様のためにになる。をする。仲間のためにになる。をする。 家族のためにになる。をする。自分のためにになる。をする。 「ためになる。をする。」とは、無限の挑戦を生み出すギフトワードです。



(写真:同社 HP より)

(4) 組織体制



(図:同社提供資料をもとに琉球銀行にて作成)

○カスタマーインプレッション本部

カスタマーインプレッション本部では、お客さまとの接点につながる商品開発、商品販売を担う部署となっている。主に店舗(ギャラリーショップ)の管理・運営を中心に担っている部署であると同時に、店舗展開の戦略や EC サイトの運営管理、商品プランディング、システム生産管理を担っている。

○コミュニケーションデザイン本部

コミュニケーションデザイン本部では、主に人材の採用や育成を行う部署となっており、研修制度の拡充や組織文化・人事制度の設計、従業員ロイヤリティ向上に取り組んでいる。

○コーポレートデザイン本部

コーポレートデザイン本部では、首里石鹼において主に管理部門全般を担う部署で、総務やシステム、財務・経理部門を担っており、コーポレートガバナンス強化やフレキシブルな働き方の環境整備などに取り組んでいる。

(5) 本社及び店舗所在地

■本社



(本社:外観)



(本社:内観)



(ミーティングルーム)

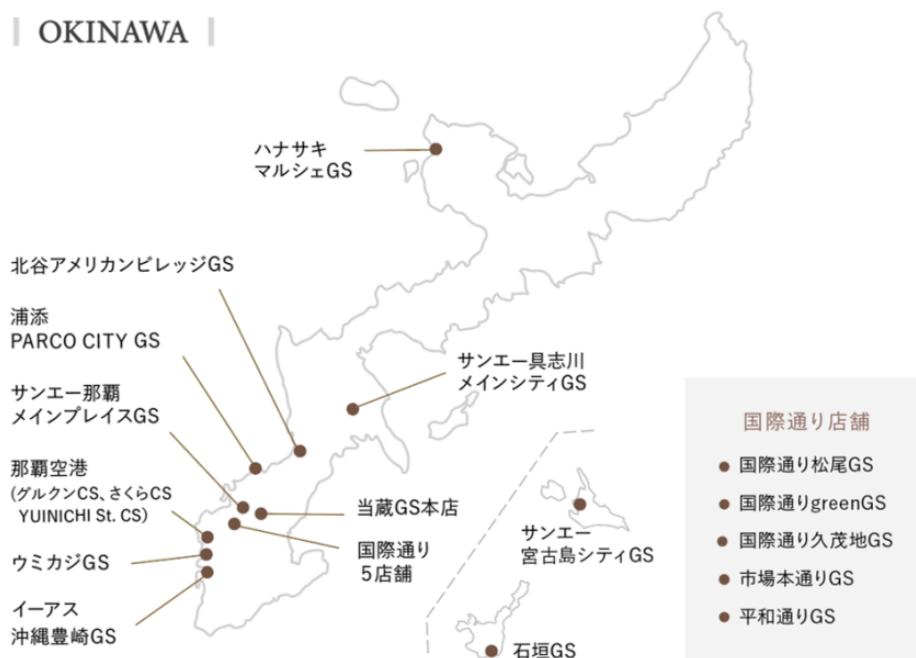


(トレーニングスペース)

本社には、カジュアルな対話ができる共有スペースや研修の成果を発表共有できるプレゼンテーションエリアなどを設け、日常の中に自然なコミュニケーションと学びの循環が生まれる設計となっている。加えて、本社内に内装・商品ディスプレイ・レジ・在庫置き場など、実際の店舗と同様のトレーニング用店舗を併設しており、OJT や新商品の勉強会に活用することで、人材育成を行うだけでなく、商品開発やディスプレイ、店舗内装などの新たな首里石鹼の開発にもつながる場所となっている。

■全国及び沖縄の首里石鹼ギャラリーショップ

OKINAWA

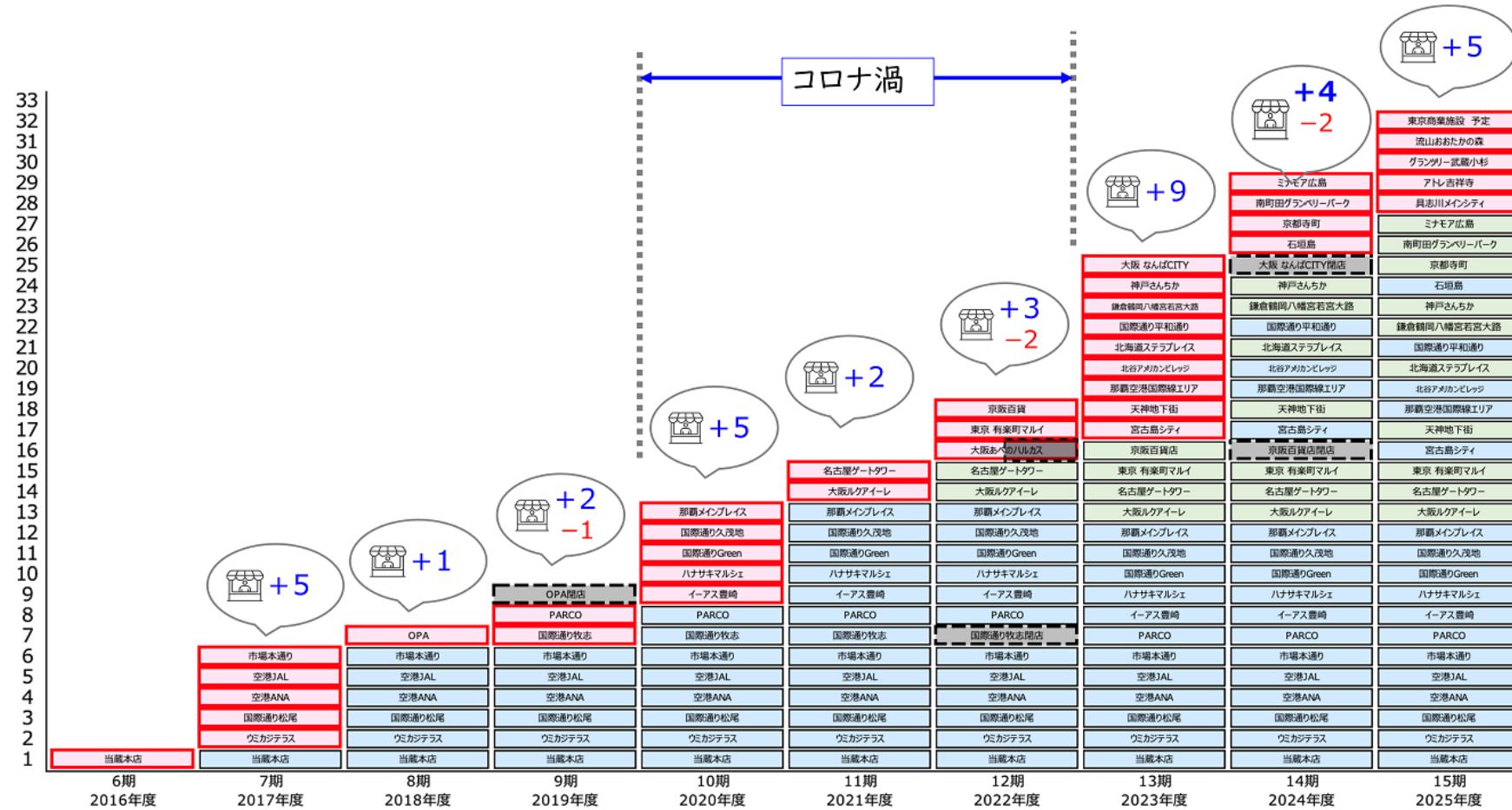


JAPAN



(図:同社提供資料)

■首里石鹼ギャラリーショップの店舗推移



(図:同社提供資料)

(6) 沖縄県産原料の活用

首里石鹼では、沖縄の自然を詰め込み、香りと素材と使い心地にこだわった商品を販売しており、同社の強みのひとつとなっている。取り扱い製品は、沖縄の自然や文化を感じるもの提供しており、沖縄素材を世界へ伝える。「県民石鹼プロジェクト」として、数多くの沖縄産成分を活用した商品を販売している。これまで使用した原料は以下の通り(2025年3月末時点)。これからも、沖縄の自然を詰め込み、世界へと沖縄の魅力とともに製品を届けていく。

タチアワユキ センダングサ	アロエベラ	月桃	シークヮーサー	ゴーヤー
オクラ	モズク	黒糖	海泥(くちゃ)	パッションフルーツ
パイナップル	パパイヤ	サンゴ	やんばる豚プラセンタ	ヨモギ
海塩	ハイビスカス	アセローラ	タマヌオイル	泡盛酒かす
ツルグミ	クマツヅラ	アパタイト	ヘチマ	ドロマイト

上記の通り、数多くの原料の活用を行っているが、本評価書では、その一例として、タマヌオイルを活用事例について紹介を行う。

タマヌオイルとは、オトギリソウ科のテリハボク(タマヌ)がつける種子から抽出したオイル。タマヌオイルは、ハワイを含む太平洋の島々で、古くから伝統薬として幅広く使われている。しかし、製造する過程で生じる独特なニオイが日本人には受け入れ難いとされてきたが、オイル製造を担っている生産者が、そのニオイを最小限に抑えながらオイルの効能を守るため、非加熱で化学薬品を一切使用せずに抽出を行うことで、良質なオイルに仕上げている。沖縄では、各地で防風林として植えられており、9月～10月に実を落とす。生産者は、樹木にダメージを与えないようにするため、樹木からは取らず、熟して落ちたものだけを集めている。また、これまでには、道に落ちたタマヌの実は重要視されずに捨てられていたが、シルバー人材センターの方へ収集を依頼し、高品質な原料へと再生することで、アップサイクルの取り組みにもつながっている。様々な手間がかかっているタマヌオイルを「ホワイトマリンクレイ洗顔石鹼」や



「エッセンスハンドクリーム」などの首里石鹼の人気商品に込めて提供をしている。

(写真:同社 HP より)

(7) サステナビリティ方針と活動

① SDGs 宣言と3つの重点領域

同社は 2023 年 12 月に SDGs 行動宣言を定め、企業活動を通じた、社会課題の解決に取り組み、SDGs 達成に貢献している。

同宣言では、『経済成長をしながら、すべてのステークホルダーへ公正さを保持する企業文化を醸成し、住み続けられる街づくり、自然遺産等の保護に寄与します。地域社会への貢献として、地域生産物の積極使用と PR 活動・地域の価値創造活動に取り組み、首里城再建プロジェクトや、ビーチサッカーチームの支援を行っております。今後も「ためになる。をする。」と事業成長の両立を実現致します。』と宣言しており、各種支援を継続して実施している。

加えて、同社 HP では以下の3つの重点領域(社会・環境・ガバナンス)を定め、SDGs と結びつけ取り組みを進めている。

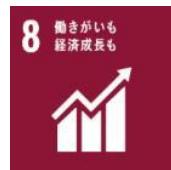
【社会(Society)】

「人生の変化を前提とした制度を実現し、暮らしも事業成長も追及する働き方を。」

・働き方改革に取り組み、ペーパレス化、リモート出勤やチャット、オンライン会議を活用することで、フレキシブルな労働環

境を導入し、働き方の柔軟性を高める取り組みを実施し、効率化による生産性の向上と働き方の選択肢を増やすことを実現に向けて取り組んでいる。

・従業員が、産休や育休など多様な事情を抱えながらも、仕事も大きな責任を担い、女性管理職の実現できる環境を提供しつつ、事業成長も同時実現することで、暮らしも事業成長も追及できる働き方を提供していく。



【環境(Environment)】

「廃棄や資材の最小化に取り組み、地球環境に配慮した持続可能な観光事業運営を行います。」

・商品の品質を維持できる水準で、製品演出の箱をできるだけ減らし、配送梱包材を最小化、資材選定においても環境への配慮を重視し、特産品や文化を広める観光業の運営を実施している。



【ガバナンス(Governance)】

「経済成長をしながら、すべてのステークホルダーへ公正さを保持する企業文化と、住み続けられる街づくり、海や世界遺産や自然遺産の保護に寄与します。」



・コーポレートガバナンスの方針策定やハラスマントへの社内相談窓口の設置、昇進の判断基準の明文化を行い、ガバナンス強化を実施するとともに、事業活動を通じた形で各種(首里城、養殖珊瑚、交通遺児、ビーチサッカー)寄付を実施している。

(例;特定の製品購入金額の一部を寄付、社員同士の誓めた回数分を寄付など)

②働き方への取り組み

■全社員の給与を社内公開

同社では、公平で透明性の高い会社を目指しており、その取り組みの一環として、全社員の給与を社員へ公開している。公開することで、評価に対する納得感が得られやすく、希望の役職を目指すやる気や意欲向上につながっている。

■役職の新設・増員時には社内公募を実施

挑戦意欲を持つ社員に任せたいとの思いから、役職を新たに新設・増員する時には「社内公募」を実施している。そうすることで、入社歴や年齢は一切関係なく、実力次第で望んだポジションに挑戦することが可能となり、キャリアアップを積極的に取り組む環境を整えている。

■働く場所の提供

首里石鹼事業は、沖縄だけでなく、全国の都道府県でも店舗を展開している。国内各地の異動希望も公募制を取り入れることで、新たな場所でのチャレンジやライフステージの変化による県外での働き場所の提供を実現している。



■教育・研修制度

同社では、事業部ごとに手厚い教育制度を設けており、各事業の業務をこれまで経験したことがない方でも、研修や入社後のフォローアップを通じて一人前に成長することができる体制を整えている。例えば、首里石鹼事業の場合、基礎研修にて「首里石鹼アドバイザー」として必要な基礎知識を5日間に研修を実施し、店舗配属後も「バディー」と呼ぶメンターの先輩社員をつけることで、業務の流れや接客方法



についても OJT を実践できる体制を構築している。加えて、全商品のサンプルを支給や新商品の販売前の新商品研修を実施することで、実際の使用感などの「生の声」や製品の特長をお客様に伝えることができるようしている。

(写真:同社 HP より)

■「ありがとう。」見える化する仕組み「CABAS(カバス)」

同社では、従業業員同士がお互に良い所を見つけ、褒めあうことのできる首里石鹼独自のコミュニケーションツール CABAS(コミュニケーション アメージング バッジ システム)という制度がある。

具体的には、全 12 種類のバッジから送りたいバッジを選び、「いつも、ありがとう。」「今日も素敵だね！」等のコメントと共に相手にバッジを送ることが出来る。届いたバッジとコメントはリアルタイムで確認できるだけでなく、これまでに届いたコメントを読み返すことも出来るため、今まで自分では気づかなかった長所が発見できたり、自分の何気ない行動や言動が誰かのためになっていたことに気づけたり、日々のモチベーションアップにも繋がる取り組みを行っている。



(写真:同社 HP より)

■手厚い福利厚生の整備

本社には、社員食堂を整備しており、希望者は 1 食 350 円で社員食堂を利用することが可能。また、事業所内保育施設「しゅりそら保育園」もあり、従業員割引価格で子どもを預けることができる。



企業内保育園

社員食堂

(写真:同社 HP より)

③環境への取り組み

■商品廃棄ゼロへの取り組み



首里石鹼の創業当時から不動の人気を誇るマーブル模様が鮮やかな「ボタニカルハンドメイド洗顔石鹼」は、沖縄の石鹼工房で職人さんが手作りしている。その石鹼の形を整える工程で、どうしても発生する切れ端をなんとか活用できないかと同社で考え、家庭用日用雑貨石鹼として販売を実施することで製造工程からでる廃棄ロスを少しでも減らす取り組みを実施している。



同社では、「作り過ぎない」を意識して、製品開発に取り組んでいるが、製造工程で一部傷が発生した商品や、製造から1年半以上経過してしまった商品も発生してしまう。利用する製品としては自信をもって提供できる製品を特別価格で販売する「首里石鹼サステナブルマーケット」を開催することで、製品を必要としている方に提供できる機会を創出し、商品廃棄をなくす取り組みを継続して実施し、廃棄をなくし、自然環境負荷の低減を図る取り組みと事業活動を両立している。

■沖縄産の有効資源の利活用



同社では、沖縄の自然や文化を感じることができる原料を利用した製品を多数開発しているが、泡盛の酒かすを利用した製品を老舗泡盛醸造所瑞泉酒造と共同プロジェクトを実施。

酒かすは一部が「もろみ酢」として活用される一方、余った酒かすは廃棄されているという現状があった。首里石鹼では沖縄産の有用成分として資源活用の取り組みをはじめ、泡盛の酒かすを使用したスキンケア商品を誕生させ、高い保湿力を誇る人気商品となっている。

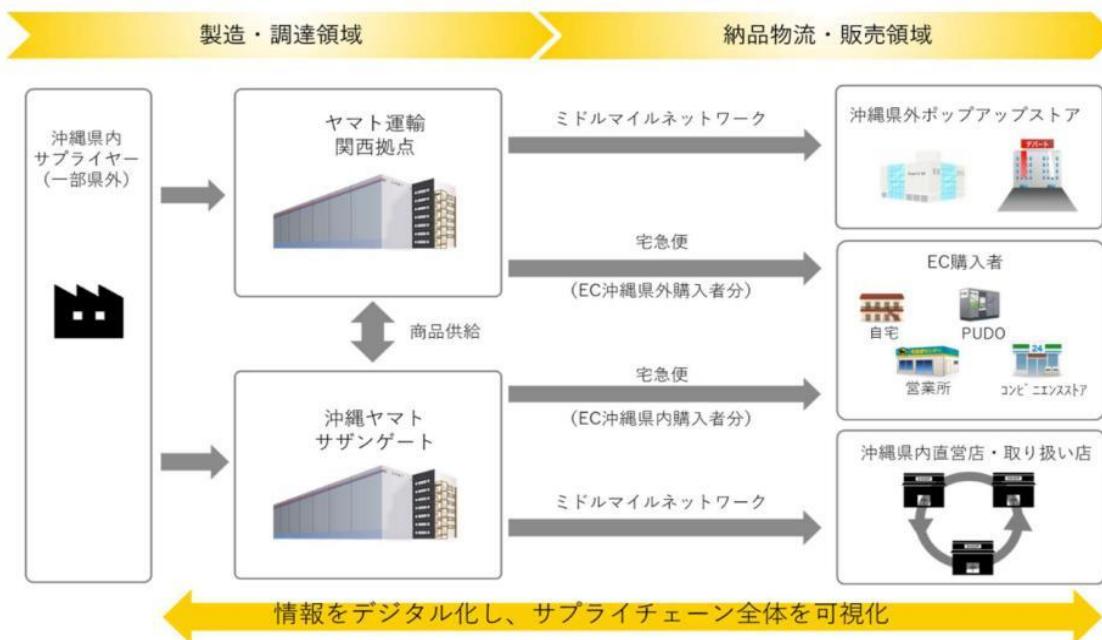
同商品を通じて、沖縄産素材の持つ可能性、引いては国内外に向けて沖縄の歴史と文化の中で育まれてきた泡盛の魅力を再発信している。

■全国流通における最適なサプライチェーン構築に向けた取り組み

首里石鹼とヤマト運輸株式会社(以下、ヤマト運輸)、沖縄ヤマト運輸株式会社(以下、沖縄ヤマト)は、首里石鹼の製品を購入するお客さまの満足度向上と最適なサプライチェーン構築の実現に向けた取り組みを実施している。

具体的には、店舗向け商品、公式通販サイト(以下 EC)向け商品の調達から保管、梱包、配達までのすべての物流業務を、ヤマト運輸および沖縄ヤマトが一括管理を行う。沖縄県内流通分は沖縄ヤマト株式会社のサザンゲートで保管し、沖縄県内 EC 販売分の出荷や 13 か所の実店舗の需要に応じた小～中ロットの店舗納品にスピーディーに対応する。県外流通分は、ヤマト運輸関西地域の拠点に保管し、EC 購入者への発送やポップアップストアへの納品を行う。

この取り組みにより、EC においては、消費地に近いヤマト運輸の拠点から発送を行うため、お届けまでのリードタイムを短縮することが可能となる。加えて、これらのサプライチェーンの構築を行ったことにより、首里石鹼の店舗販売員が販売に注力できる環境を整備するとともに、在庫を流動化させることで物流コスト圧縮や欠品による販売機会ロス削減、在庫の偏在抑制を通じたキャッシュフローの改善につながっている。また、本取り組みにより首里石鹼のサプライチェーンにおける製品輸送に関する CO₂ 排出量は、取り組み前と同じ輸送重量を想定した場合の推計値と比較して、37%の削減効果が期待できる。



(出典:ヤマトホールディングスのニュースリリース

https://www.yamatohd.co.jp/news/2021/newsrelease_20210701_1.html を参照)

■演出箱の削減



同社では、プラスチックや紙などの資材の削減ができるかぎり実施し、環境負荷低減の取り組みを進めている。パッケージレス(箱なし)製品の販売を行うことで、製品の利用に伴う箱の廃棄を削減し、環境負荷低減の取り組みを強く進めている。

(写真:同社 HP より)

③地域社会への取り組み

■県民石鹼プロジェクト



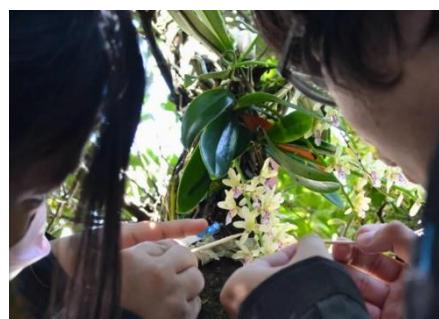
同社では、県民石鹼プロジェクトとして、沖縄の人や文化に貢献できることを願って活動するもので、沖縄県立北部農林高等学校の園芸工学科生物化学コースの学生と協働した製品を販売している。

共同プロジェクトで香りを表現した「ナゴラン」は、沖縄県の指定希少野生植物種にも指定されている。沖縄県名護市で発見され、沖縄を代表する野生ランの一種である。

北部農林高校園芸工学科では、この希少なナゴランの増殖・栽培に関する研究を行い、保全活動に取り組んでいる。ナゴランは可憐な花と甘く爽やかな香りが魅力的な花で、開花のタイミングは1年に1度であるため、その香りを楽しめるのはわずかな期間であるが、その香りと、ナゴランという沖縄の希少な植物の存在を知ってもらいたいとの想いからプロジェクトを始動した。

北部農林高校園芸工学科での保全活動の取り組みを見学するとともに、育てられたナゴランの生花の香りを、首里石鹼が表現し、できあがった香りの中から生徒に選んでもらい製品の開発に至った。このような形で、沖縄の自然と地域の思いを形にした製品を同社では生み出している。

(写真:同社 HP より)



■寄付活動



同社では、「世界のための沖縄になろう」というビジョン及び「ためになる。をする」というバリューを掲げており、「地域社会」や「地球環境」に対しても、持続可能な経営となる活動を継続して行うことを示している。同活動の取り組みとして、様々な寄付活動を下記の通り、行っている。

▶首里城再建等への支援

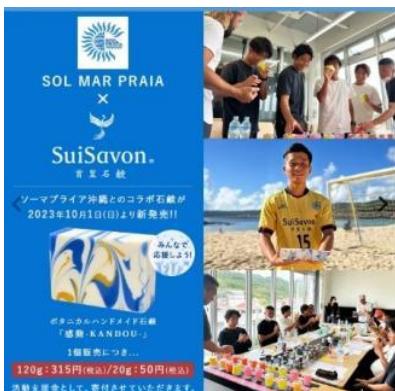


首里城の復元費用や管理費、首里城の文化遺産などの収集として活用する費用として、沖縄県庁と一般社団法人美ら島財団同社へ寄付を行っている。左図のボタニカルハンドメイド洗顔石鹼の「首里-SYURI-」を1個ごとに350円を再建費等に寄付をしており、2025年3月末までに、累計約850万円の寄付を実施している。

▶地域スポーツへの支援

(ソーマプライア及びFC琉球さくら)

同社は、ビーチサッカークラブソーマプライア沖縄の活動資金として、10年以上の寄付を行っている。また、2023年10月には、首里石鹼とソーマプライア沖縄のコラボ石鹼「感動-KANDOU-」を販売し、販売個数に応じて寄付を行っている。2025年3月末までに累計で約400万円の寄付を実施している。



また、FC琉球さくらの活動資金にも寄付を行っており、2024年11月からは、首里石鹼とFC琉球さくらのコラボ石鹼「希望-KIBOU-」を販売し、同商品の販売個数に応じて寄付を行っている。寄付を行うだけでなく、チームとのコラボ商品を通じて、チームの知名度向上にも貢献しており、沖縄スポーツの普及および活動資金支援を実施している。

(写真:同社HPより)

2.インパクトの特定

(1)バリューチェーン分析

これまでの内容で、同社の事業内容及びサステナビリティ活動について詳しく理解を進めてきた。これらの内容を踏まえた上で、以降では、同社の事業活動が経済・社会・環境にもたらすインパクトを特定し、評価していく。

そのため、同社のバリューチェーンを把握し、同社の事業活動と関連する業種を国際標準産業分類における業種コードで整理をする。

同社の主力事業である首里石鹼事業は、同社から OEM 会社へ商品を発注し、製品を仕入れ、店舗や EC サイトを通じて、個人顧客に対して販売を行う。また、一部、店舗限定商品などについては、自社の製造・開発拠点で製造を行い、店舗等にて個人顧客に対して販売を行っている。

以上から、同社の事業については、「専門店による医薬品、医療品及び化粧・洗面用品小売業(以下、化粧・洗面用品小売業、ISIC:4772)を、川上の事業については、「石けん、洗剤、クリーニング・つや出し剤、香水及び化粧品類製造業(以下、化粧品類製造業、ISIC:4772)として整理を行った。

なお、川下の事業については、取引先が主に個人顧客となるため、特定の業種は該当しない。加えて、同社では、保育園事業も実施しているが、本 PIF では、主要事業である首里石鹼事業のみの評価を行う。

【首里石鹼事業】



(2)インパクトレーダーを用いた分析

(1)のバリューチーン分析に基づき、インパクトマッピングを実施する。同社の事業および川上、川下の事業を国際産業標準分類(ISIC)上の業種カテゴリに適用させた上、UNEP FIが提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」(以下 PI)と「ネガティブインパクト」(以下 NI)を想定する。

インパクト種類	インパクトエリア	インパクトトピック	川上の事業		当社の事業		
			国際産業標準分類		【2023】化粧品類製造業		
			ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	
社会	人格と人の安全保障	紛争					
		現代奴隸					
		児童労働					
		データプライバシー					
		自然災害					
	資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質	健康及び安全性	○	○	◎	○	
		水					
		食糧					
		エネルギー					
		住居					
		健康と衛生	○		◎		
		教育					
		移動手段					
		情報					
		コネクティビティ					
	平等と正義	文化と伝統					
		ファイナンス					
		雇用	○		○		
		賃金	○	◎	○		
	生計	社会的保護		○		○	
社会経済		ジェンダー平等					
		民族・人種平等					
		年齢差別					
		その他の社会的弱者					
強固な制度・平和・安定	法の支配						
	市民的自由						
健全な経済	セクターの多様性						
	零細・中小企業の繁栄	○		◎			
インフラ	インフラ						
	経済収束						
自然環境	生物多様性と生態系	気候の安定	◎				
		水域	◎				
		大気	◎				
		土壤	◎				
		生物種	○				
		生息地	○				
		資源強度	◎				
		廃棄物	◎			○	

上記の結果に対して、同社の事業活動について影響を考慮して、修正したインパクトエリアとインパクトトピックは下表の通りである。なお、川上の事業については同社が影響を与える範囲が限定的であることから、分析の対象外とする。

(3)同社の事業活動のインパクト分析

	インパクトエリア・トピック	理由
ポジティブ インパクト (PI)	健康及び安全性 健康と衛生	沖縄の果物などを使った美容効果の高い、保湿性がある安全な美容石鹼や化粧品等を提供しており、利用者の衛生環境の維持・向上に貢献しており、今後も事業活動を通じて、同様の効果が期待できる。
	雇用	事業部ごとに教育制度や社内公募制度を実施している。また、社員食堂や事業所内保育施設を併設しており、福利厚生を充実させていく。
	賃金	県内の平均賃金を上回る水準の賃金を支給しており、年間給与の上昇についても継続的に取り組みをしている。
	零細・中小企業の繁栄	県内の石鹼工房へ製造を依頼し、商品仕入を実施していることから、直接的に零細・中小企業の繁栄に貢献している。
ネガティブ インパクト (NI)	健康及び安全性	健康や人体への安全性を阻害するような化粧品の販売を行っていない。また、残業時間の低減や有給取得率の向上を図っており、従業員が健康的に事業に従事できる環境の整備を図っている。
	社会的保護	社会保障制度を適用しており、ネガティブな影響をもたらす可能性は低い。
	廃棄物	製品の廃棄物を出さないように、仕入・在庫管理を徹底して実施している。また、製品の箱(演出箱)の使用量を抑制することで、包装材廃棄物についても削減を図っている。

(4)追加したインパクト

ポジティブ インパクト (PI)	文化と伝統	同社が販売している製品への地元の植物や果物等を利用した原料を活用することで、沖縄の自然や地域文化の発信や訴求に貢献することができている。
ネガティブ インパクト (NI)	気候の安定性 大気	EV車やHV車を営業車両で導入しており、車両利用時のCO2・排ガスの排出量低減が図られている。

(5)特定したインパクト

項目	当社のインパクト
地域資源を活用した商品拡大と商品提供の機会の創出	<p>同社は、首里石鹼事業により洗顔石鹼やハンドクリームなどのスキンケア商品を通じて、保湿や香りといった美容効果や洗浄による衛生的な状態に保つだけでなく、沖縄の自然を感じることができる製品を供給してきた。同事業により、沖縄県にある豊かな自然や文化を製品を通じて感じることで、沖縄の魅力発信につながる。こうした同社商品の流通量が増加することで、地域原料の活用や地域企業との連携が一層促進され、地域社会・経済の活性化にも貢献することができる。このインパクトは、「UNEP FI」のインパクトトレーダーでは、「健康及び安全性」「健康と衛生」並びに「文化と伝統」「零細・中小企業の繁栄」に該当し、社会面および社会経済面のPIを拡大すると考えられる。SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3.4 非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する」 ・「11.4:世界の文化遺産・自然遺産を保護・保全する取り組みを強化する」
事業活動を通じた環境負荷低減に向けた取り組み	同社が行う販売事業においては、商品廃棄物の発生により環境負荷の増加につながるが、販売予測に基づいた適正量の仕入等を行うことで、製品の廃棄量ゼロを実現している。加えて、商品の箱(演出箱)の使用量を抑制することで、包装材廃棄物の削減にも取り組んでいる。また、店舗や各種営業活動により必要な車両を用いた移動についてもEV・HV車の導入を行

	<p>い、CO2 や排気ガスの排出量抑制に取り組んでいる。このインパクトは、「UNEP FI」のインパクトトレーダーでは、「廃棄物」「気候の安定性」「大気」に該当し、自然環境面の NI の低減につながると考えられる。SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「12.5:廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。」 ・「13.3:廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」
ひとりひとりの「豊かさ」につながる職場づくりの実現。	<p>同社は、事業所内保育施設の設置や社員食堂の設置、居住地やライフスタイルに合わせられるよう車での通勤が可能になるように、従業員駐車場の整備を行うなど従業員が働きやすい環境の整備を実施している。また、公正かつ公平で公明な制度設計を理念に、役員も含めた全従業員給与の公開や役職の立候補制度、従業員同士が讃めあえる制度を通じて、従業員ひとりひとりが豊かに働くよう取り組んでいる。加えて、売上高の増加を実現することで、給与水準の継続的な引き上げに取り組み、暮らしの豊かさも同時実現できる取り組みを進めている。残業時間等を細かく確認することで、従業員一人一人の課題を把握し、残業時時間の削減や有休取得率の向上にも取り組んでいる。このインパクトは、「UNEP FI」のインパクトトレーダーでは、「賃金」及び「健康及び安全性」に該当し、社会面の PI を拡大するとともに NI を低減すると考えられる。SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「8.5:、若者や障害者を含むすべての女性と男性にとって、完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)を実現し、同一労働同一賃金を達成する。」

(6)インパクトニーズの確認

①国内のインパクトニーズ

国内における SDG インデックス＆ダッシュボードを参照し、そのインパクトニーズと同社のインパクトとの関係性を確認した。なお、「SDG の達成を緑色」、「課題が残っている SDG を黄色」、「重要な課題が残っているをオレンジ」「重大な課題が残っているを赤色」で示している。本 PIFにおいて特定したインパクトに対応する SDGs のゴールは、以下 5 点である。

- ・「3:すべての人に健康と福祉を」
- ・「8:働きがいも経済成長も」
- ・「11:住み続けられるまちづくりを」

・「12:つくる責任つかう責任」

・「13:気候変動に具体的な対策を」

国内における SDG ダッシュボード上では、「12」「13」については「重大な課題が残っている」、「11」については「重要な課題が残っている」、「8」については、「課題が残っている」とされており、同社の製品提供を通じた経済循環の好サイクルや環境負荷の低減、従業員の働きやすい環境の整備等が国内におけるインパクトニーズと一定の関係性を有することを確認した。



②沖縄県におけるインパクトニーズ

同社は、沖縄県を中心として事業を手掛けていることから、「沖縄県 SDGs 未来都市計画」を参照し、沖縄県内における SDGs 達成に向けての課題を確認した。下記のとおり、沖縄県は「一人ひとりがあらゆる場所で活躍できる社会の実現」「医療・福祉の充実」、「県経済の基盤となる安定的な雇用」「気候変動」への取り組みが重要としており、店舗展開、県産原料の利活用や雇用環境の改善や良化、廃棄物の削減や EV や HV への導入が、沖縄県内におけるインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。

「沖縄県 SDGs 未来都市計画」より沖縄県における 12 の優先課題を抜粋

①性の多様性(LGBT 等)、障がいの有無、国籍など、互いの違いを認め合い、一人ひとりが大切にされ、あらゆる場所で活躍できる社会の実現(多様性の尊重、個人の尊厳)

- ②医療・福祉の充実、健康長寿と生きがい、子どもを貧困から守る子育てしやすい暮らし
- ③地域への誇り(しまくどうばの普及・推進等)と夢・目標をもてる学びの確保、教育の充実
- ④基幹産業として持続可能で責任ある観光(サステナブル/レスポンシブルツーリズム)の推進、観光との連携・相乗効果等も活用した産業振興(農林水産業におけるブランド化等)、県経済の基盤となる安定的な雇用
- ⑤日本とアジア・太平洋の架け橋となる物流・情報・金融の拠点
- ⑥気候変動に適応する強靭なインフラと交通網の整備
- ⑦多様な生物・生態系や世界自然遺産を含む自然に囲まれた環境の保全、エコアイランドの実現、自然と調和したライフスタイル。
- ⑧基地から派生する諸問題の解決の促進、平和を希求する沖縄として世界平和への貢献・発信
- ⑨共助・共創型の安全・安心な社会の実現
- ⑩ユイマール(相互扶助)の継承・人の和・地域の和
- ⑪地域・世代・分野・文化等を超えた多様な交流と連携の創出
- ⑫世界の島しょ地域における技術・経験の共有と国際貢献・グローバル・パートナーシップ

③琉球銀行が認識する社会課題との整合性

琉球銀行は「地域から親しまれ、信頼され、地域社会の発展に寄与する銀行」という経営理念を掲げ、琉球銀行グループとして「地域経済の好循環サイクルを実現し、地域とともに成長する金融グループ」を長期ビジョンとしている。また、重要課題(マテリアリティ)として、ステークホルダーとの関係において積極的に実現すべきテーマを「気候変動リスクの把握と対策」「地域全体の“仕事をこなす力”的底上げ」「ESGを勘案した投融資活動」「金融サービス拡大(高度化)への挑戦」「人的資源の開発」「コーポレートガバナンスの高度化」と整理している。加えて、実現を下支えするテーマを「ダイバーシティと機会均等」「労働安全衛生・健康経営の徹底」「持続可能な資源利用」「地域社会との積極的な関わり」「安全な金融商品の提供」「リスクマネジメント」と整理している。同社の特定したインパクトのうち、「地域資源を活用した商品拡大と商品提供の機会の創出」は、琉球銀行の「地域全体の“仕事をこなす力”的底上げ」と方向性が一致しており、「事業活動を通じた環境負荷低減に向けた取り組み」は、琉球銀行の「気候変動リスクに把握と対策」「持続可能な資源利用」と方向性が一致している。さらに、「ひとりひとりの「豊かさ」につながる職場づくりの実現」は、琉球銀行の「人的資源の開発」「ダイバーシティと機会均等」「労働安全衛生・健康経営の徹底」と方向性が一致している。

以上から、琉球銀行は、本件の取り組みが SDGs の達成および貢献に向けた取り組みと当行の重要課題と整合的である。

3.KPIの設定

特定したインパクトの発現状況を今後も継続的に測定可能なものとするため、先に特定したインパクトに対し、インパクトの種類、インパクトピック、関連する SDGs、内容・対応方針および目標と KPI を整理、設定する。

(1)地域資源を活用した商品拡大と商品提供の機会の創出

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面・社会経済的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトエリア・トピック	「健康及び安全性」「健康と衛生」 「文化と伝統」「零細・中小企業の繁栄」
関連する SDGs	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>3 すべての人に 健康と福祉を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられる まちづくりを</p> </div> </div>
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ボタニカルハンドメイド石鹼やフォームソープ、ハンドソープ等の製品販売を通じて、美容や衛生状態の向上に貢献。 ・沖縄の自然を感じることができる商品の販売の場を県内外に拡充し、供給を拡大することで地域経済を活性化。 ・地元原料を多く活用することで沖縄の魅力発信の機会を創出し、地域の食材や花、文化の認知度向上に貢献。
目標と KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2028年3月期までに、県内外で新たに11店舗以上出店を行う。 2025年3月末:店舗数 27店舗 ・2028年3月期までに沖縄県産の原料使用品目数を30品目以上とすることを目指す。そのほか、沖縄の魅力やブランド価値向上のための商品開発等の取り組みを実施する。 (他企業とのパートナーシップにおける魅力発信の取り組み等) 2025年3月末:25品目 <p>※いずれも2029年3月期以降の目標は改めて設定する</p>

(2)事業活動を通じた環境負荷低減に向けた取り組み

項目	内容
インパクトの種類	自然環境的側面においてネガティブインパクトを緩和

インパクトエリア・トピック	「廃棄物」「気候の安定性」「大気」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・社用車の EV・HV 車への置き換え推進。 ・販売店舗拡大の目標の下で商品取扱量を増やしていく中でも、適正量の仕入れ・在庫管理を徹底することで、廃棄商材の発生ゼロを継続。 ・商品の内容や特性に応じてパッケージの箱の必要有無を精査し、包装資材の廃棄物についても削減を推進。
目標と KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2028 年 3 月期までに社用車の EV・HV 比率を 50%以上とする。 2025 年 3 月期:17%(全 6 台中 1 台) ・首里石鹼事業における廃棄商材の発生量ゼロを維持する。 2025 年 3 月期:廃棄商材ゼロ <p>※2029 年 3 月期以降の目標は改めて設定する</p>

(3)ひとりひとりの「豊かさ」につながる職場づくりの実現

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大 社会的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクトエリア・トピック	「賃金」「健康及び安全性」
関連する SDGs	
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高の増加による利益金額の増加を実現し、従業員給与の引き上げを行う。 ・残業時間や勤怠管理を細かく確認することで、従業員一人一人の課題を把握し、残業時間の削減や有給休暇取得率の向上を図る。

目標と KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2028年3月期までに月間平均残業時間を2時間とする。 2025年3月期:2.4時間 ・2028年3月期までに有給休暇取得率85%以上とする。 2025年3月期:77% ・2028年3月期までに、2025年度3月期比5%の賃上げを実現する。 2025年3月期:平均給与359万円 <p>※いずれも2029年3月期以降の目標は改めて設定する</p>
---------	--

4. モニタリング

(1)同社におけるインパクトの管理体制

首里石鹼の緒方代表取締役を中心に自社の主要事業の棚卸を行い、本 PIF におけるインパクトの特定並びに KPI の設定を行った。

今後、本件で設定した目標・KPI の進捗状況については、以下の体制を中心とした部署が中心となり、SDGs の推進、本 PIF で設定した KPI の進捗管理を行っていく方針である。

統括責任者	株式会社首里石鹼 代表取締役 緒方教介
モニタリング担当部署	コーポレートデザイン本部
報告担当部署	コーポレートデザイン本部

(2)当行によるモニタリング

本 PIF で設定した KPI 及び進捗状況については、同社と琉球銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。情報共有については、少なくとも年に1回実施することに加え、日々の情報交換や営業活動を通じて実施していく。また、KPI の達成状況については、当行ホームページにて公表を行う。

(3)下記の通り、融資返済期限と同一期間にて定める。

モニタリング期間(返済期限)	7年間
----------------	-----

以上

留意事項

1. 本評価書の内容は、琉球銀行が現時点で入手可能な公開情報に加え、首里石鹼から提供された情報や同社への事業に関するヒアリングを通じて収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブ要素の成果及びネガティブ要素の抑制等を保証するものではありません。
2. 本評価を作成するために活用した情報は、琉球銀行がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。琉球銀行は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・默示を問わず、何ら表明または保証するものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は琉球銀行に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用(複製、改変、翻案等を含む)は禁止されています。